

# THANKS

BUSINESS NEWS LETTER

(VOL. 210)

発行日：平成26年12月1日  
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング  
連絡先：〒359-0043  
埼玉県所沢市弥生町1792-10  
TEL:04-2907-1715  
E-MAIL：[info@thanksmind.co.jp](mailto:info@thanksmind.co.jp)  
<http://www.thanksmind.co.jp>

## 特集

### 「経営分析の基本⑪」・・・安全性分析（その2）

本誌では、経営分析の基本（数字から会社の状況を把握しよう!）」というテーマを特集しています。今回も前回の続き。

「安全性分析」について説明します。

#### 1. 「安全性分析」の3つの視点と、短期的支払い能力の評価　・・・前回の復習



安全性分析には、以下の3つの視点があります。

#### ①短期的支払い能力

短期（1年）の支払い能力は大丈夫か？

#### ②長期的（潜在的）支払い能力

もう少し長い目を見た場合の支払い能力は大丈夫か？

#### ③資金調達の健全性

資金調達のバランスは大丈夫か？

この中で、今回は、①の「短期的支払い能力」について確認しました。短期的な支払能力を評価するための指標は、以下の2つです。

## (1) 流動比率

資産	負債	
①流動資産 …「現金化の流れの中にある」 「1年以内に現金化される」	③流動負債 …「1年以内に返す必要あり」	他人の金 (借金)
②固定資産 …「現金化の流れの中にある」 (固定化)されている	④固定負債 …「1年以内に返す必要なし」	
	純資産	自分の金
	⑤純資産 …「元手」+「儲け」	

$$\text{流動比率} = \frac{\text{①流動資産}}{\text{③流動負債}}$$

理想値：200%以上

良好水準：130%以上

## (2) 当座比率

	資産	負債	
①流動資産	①A 当座資産 … 現預金、売上債権、その他	③流動負債 …「1年以内に返す必要あり」	他人の金 (借金)
	①B 棚卸資産	④固定負債 …「1年以内に返す必要なし」	
②固定資産 …「現金化の流れの中にある」 (固定化)されている	純資産		自分の金
	⑤純資産 …「元手」+「儲け」		

$$\text{当座比率} = \frac{\text{①A当座資産}}{\text{③流動負債}}$$

理想値：100%以上

良好水準：80%以上

## 2. 長期的（潜在的）支払能力の評価・・・固定資産が大き過ぎないか？

バブルの頃に、投資目的としてマンションを購入することが流行しました。「年率10%以上の利回り！」のうたい文句に踊らされて購入したのは良いけれど、その後の急激な資産価値の低下により、「手放したくても手放せない」状況の人が沢山でした。元々、お金持ちで余裕資金で購入した人は良いですが、多額の借金をした人は辛いですね。我々のような庶民は、やはり地道に働いて稼ぐことが懸命でしょう。

会社でも同じことが言えます。多くの設備投資を実施して、急速に会社を拡大したけれど、その後、事業環境がガラッと変わってしまった、予定した収益を獲得できなくなってしまったら厳しいです。設備等の固定資産は、事業を推進するために必要な財産ですが、前回説明した流動資産のように、すぐに現金に変わることはありません。見込みが狂ってしまったら、単なるお荷物。あまりに重荷になると、それが原因で倒産してしまうこともあり得るのです。

それでは、固定資産が過大かどうかは、どのように評価したらいいのでしょうか？

### (1) 固定比率

資産	負債
①流動資産	③流動負債
②固定資産	④固定負債
	純資産
	⑤純資産

$$\text{固定比率} = \frac{\text{②固定資産}}{\text{⑤純資産}}$$

「固定資産」は、ひとことで言えば、「お金にならない財産」。できれば、借金に頼るのではなく、自分のお金（＝純資産）の範囲の中で、まかないたいですね。

「固定比率」は「固定資産」÷「純資産」で計算します。

目安としては、以下の通りです。

理想値：100%以下      良好水準：160%程度

100%を下回るということは、固定資産は全て自分のお金で購入できているということ。もし、マンションの価値が下がっても、自分の金だけで買ったものならば、それが重しになって、資金的に苦しくなることはないですね。

## (2) 固定長期適合比率

資産	負債
①流動資産	③流動負債
	④固定負債
②固定資産	純資産
	⑤純資産

$$\text{固定長期適合比率} = \frac{\text{② 固定資産}}{\text{⑤ 純資産} + \text{④ 固定負債}}$$

「固定資産」は、「お金にならない財産」だから、借金をしないで自分のお金で買いたい！」  
確かに、その通り。

とは言っても、これは理想であり、現実には借金をしないでマンションを購入できる人はほとんどいないでしょう。

「固定資産」は、お金にならない財産。  
できれば、自分のお金だけで買いたいけれど、もしそれが無理だとしたら、せめて、すぐに返さなければ  
ならない借金ではなく、「ゆっくり返す借金」で買っておきたい！  
それが、固定長期適合比率の考え方です。

「固定長期適合比率」は「固定資産」÷「純資産+固定負債」で計算します。

目安としては、以下の通りです。

**100%以下でなければ厳しい！**

皆さんが、マンションを購入することをイメージしてください。  
自己資金だけでは購入が難しいので、長期の住宅ローンを組むことにしました。  
しかし、それでも、ちょっとお金が足りない・・・  
どうして住みたいマンションだったので、思い切って、短期（1年以内返済）の借金をして住宅資金に  
充てたとします。  
その後、どうなると思いますか？  
しばらくは、なんとか暮らして行けるかも知れませんが、もし、誰かが病気になってしまって急にお金が  
必要になっても、もはや借りることはできません。  
怖いですね・・・

前回説明した、「当座比率」は、「流動比率」をよりシビアに見たものに対して、「固定長期適合比率」  
は、「固定比率」を、やや甘めに見たもの、と解釈すれば分かりやすいです。

### 3. 誤解しないように！

短期的な支払能力を評価する「流動比率」「当座比率」も、長期的（潜在的）な支払能力を評価する「固定比率」「固定長期適合比率」も、比率の計算式は以下の通りです。

$$\text{比 率} = \frac{\text{資産（左の箱）}}{\text{負債・純資産（右の箱）}}$$

ただし・・・  
比率の「読み方」が真逆になります。

**短期的な支払能力（流動比率、当座比率） ⇒ 数字が大きければ、大きいほどGOOD！**  
**長期的な支払能力（固定比率、固定長期適合比率） ⇒ 数字が小さければ、小さいほどGOOD！**

誤解しないようにしてください。

<次回に続く>